学校だより

平成 28（2016）年　8 月 27 日
カンタベリー日本語補習校
校長　古川　明

《補習校で学ぶ目的を確認しましょう！》

2 学期も半ばに入り、子どもたちの学習にも力が入ってきました。先週は、本校の公開研究授業並びに研究協議会が行われました。その研究会には、オークランド日本語補習学校とウェリントン補習授業校から、合計 4 名の先生方をお招きして行われました。今年度の研究テーマ「自ら考え、学び合う子どもをめざして～伝え合う力を育てる授業づくり～」のもと、本年 5 月から各先生方は学習指導案を作成して、授業研究（校長授業参観）を行ってきました。

今回の公開研究は、小学部１年１組ワテネ級で授業研究が行われ、各先生方は授業を参観しながら学習指導で良かった点や工夫・改善点等を付箋で記入し、それを座標軸ボードに添付・整理します。その作業を通して、参加者は互いに授業の質をさらに向上させる授業イメージを描き、それを共有化するところに意義があります。カンタベリー補習校の先生方にとって、また、オークランド・ウェリントン両校の補習校の先生方にとっても、授業力の向上と授業改善をめざす全ての先生方にとって、価値のある公開研究授業並びに研究協議会を行うことができました。なお、公開研究授業に際して、各学級で自習監督としてご指導いただいたヘルプボランティアの皆様には、心より感謝申し上げます。

補習校教育は、知識・技能の基礎基本を習得することに重点をおきながら、知識・技能を活用しながら思考力・判断力・表現力を高めることをねらいとしております。学習指導は、学習指導要領に基づいて編集されている日本語の教科書を用いて、日本語で指導することになっています。本校の教育課程は、授業日３９回で、小１～小４は国語１１７コマ（3×39）、算数３９コマ（1×39）で、合計１５６コマの授業です。小５～中３は国語７８コマ（2×39）、算数・数学３９コマ（1×39）、社会３９コマ（1×39）で、同じく合計１５６コマの授業です。そのため、授業の進む速さは、日本国内の２～４倍の速さになっております。

子どもたちは、この学習スピードに付いて来るためには、家庭での予習、復習は欠かすことはできません。教室学習と家庭学習が５：５の比率で統合されることにより、その結果、子どもたちの学力が保障されます。

特に、海外で生活する子どもたちは、十分に日本語が発達していない状態で、外国語（英語）の世界に浸るわけですから、絶えず補習校で学ぶ目的意識を持ちながら、日本語の習得に取り組む必要があります。日本語を正しく、美しく使うことができ、日本語を深く、広く理解できるようになるため、日本語を系統立てて学び、そして、集団教育の中で自らの考えを日本語で伝え合い、学び合うことが、日本語を自分のものとして自由に操ることができるようになります。どの様な言語の習得であっても、毎日の努力と強い信念を持つことが大切です。子どもたちの人生が、自らの力で築くことができますよう、引き続き家庭でのご支援、ご指導をお願い申し上げます。

《日本語講座～補習校中学部卒業生対象の学習会～》

日本語講座は、本年６月２８日（火）に開講しました。ここで、日本語講座の様子を紹介します。

今年度、本講座を開講した趣旨は、中学部を卒業した生徒が、「これからも日本語を学んでいきたい」という思いを持っていて、その願いを少しでも叶えることができたら、これほど日本人として、教員として、素晴らしいことはないと思ったからです。

受講生は、本校中学部を卒業した生徒で、教科選択制を実施しています。そのため、各教科６名という定員の枠を設けています。受講料は無料（教科書代は別）とし、１コマ６０分で各教科１０コマ、合計３０コマの実施予定としております。講座の講師は、校長と補習校教員（２名）で行い、無償ボランティアで行っております。テキストは、高校の教科書を用いて、国語、数学、日本史の授業を行っています。現在、講師の都合により各教科の講座回数に違いはありますが、順調に進められています。

講師にとって一番嬉しいことは、受講生が熱心にノートをとり、時には丁寧に答える必要のある本質的質問もあり、また、講師の方から受講生に考えてもらう発問をして、課題に迫る学びもあります。

以前、補習校中学部で共に机を並べて学んだ子どもたちであり、学習意欲を持って日本語を学ぶ姿勢に感心をしながら、日本語講座の学びを通して日々成長していく受講生から元気をもらっています。